

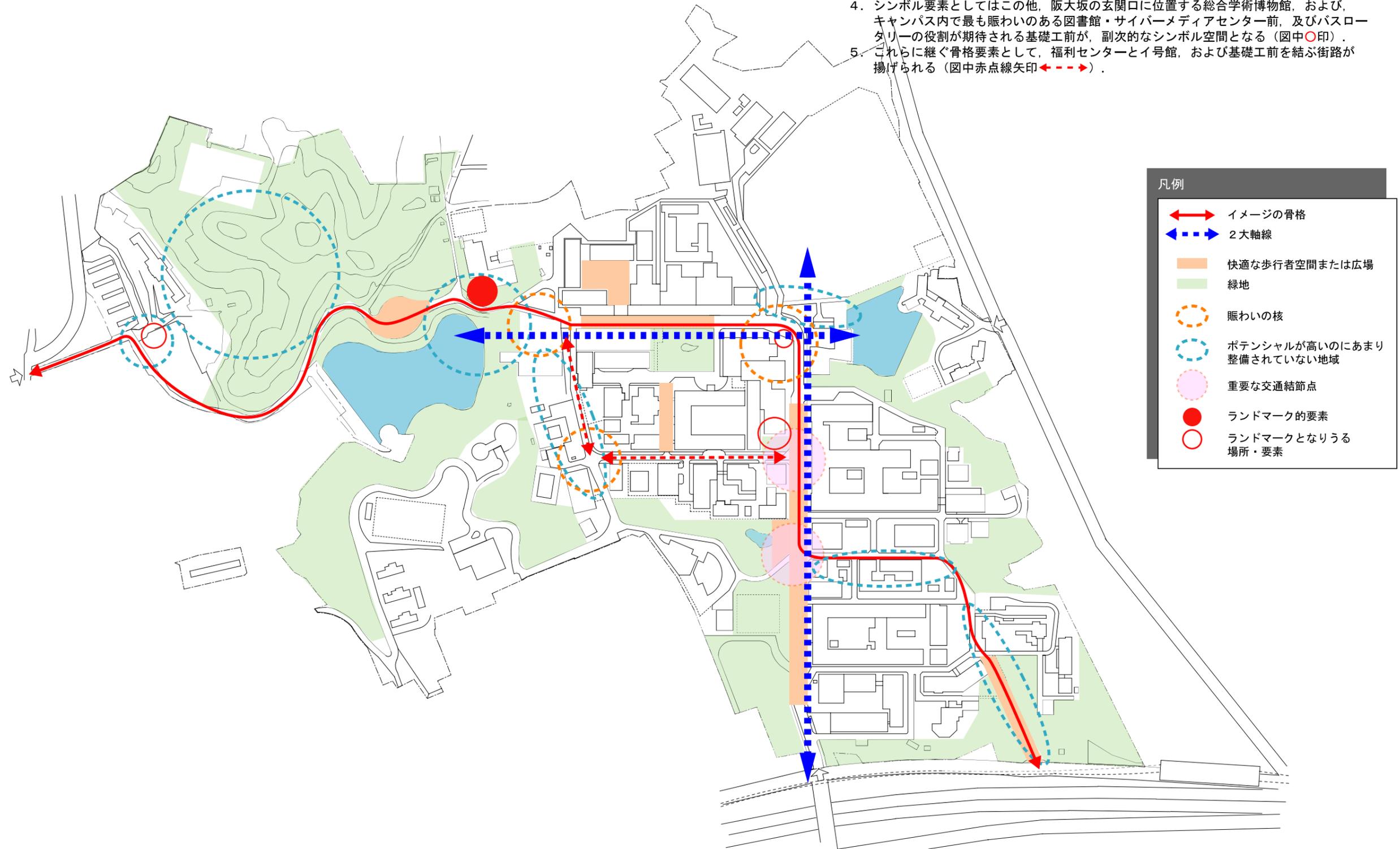


■イメージ骨格形成の方針

1. 前項で抽出した活かすべき資源のうち、特に「快適な歩行者空間」「緑地」に注目する。
2. これに別項で検討した「交通動線骨格」を加味する。
3. ランドマーク（イ号館）、および賑わいの核との整合を検証する。

■イメージ骨格の形成

1. 旧医短門～共通教育棟群前～大通り～工作センター周辺～柴原口（図中赤矢印 ←→ ）は一筆書き状の主要な歩行者動線であり、強いイメージ骨格をなすことが解る。
2. 一方、正門～グランドまでの大通り、および共通教育棟群前の中山池～乳母谷池までの通りは従前からのキャンパスの2大軸線（図中青点線矢印 ←- - -> ）であり上記の主要な歩行者動線と多くが重なる。
3. 現況の最も強いランドマークであるイ号館（図中赤●印）は、従来は賑わいの空間から遊離しており、キャンパスのシンボルとしての力が弱かったが、このたび完成する学生交流棟によって賑わい空間との相乗効果が期待できることとなった。
4. シンボル要素としてはこの他、阪大坂の玄関口に位置する総合学術博物館、および、キャンパス内で最も賑わいのある図書館・サイバーメディアセンター前、及びバスロータリーの役割が期待される基礎工前が、副次的なシンボル空間となる（図中○印）。
5. これらに継ぐ骨格要素として、福利センターとイ号館、および基礎工前を結ぶ街路が揚げられる（図中赤点線矢印 ←- - -> ）。



凡例	
	イメージの骨格
	2大軸線
	快適な歩行者空間または広場
	緑地
	賑わいの核
	ポテンシャルが高いのにあまり整備されていない地域
	重要な交通結節点
	ランドマーク的要素
	ランドマークとなりうる場所・要素

